



熊川 雄太さん  
(飯桶町)

「地元・福島での大会。どうしても入賞しなかった」6月にいわき市で開催された全日本ウエイトリフティング選手権男子69kg級で第3位に輝く村出身選手。熊川さんは飯館中卒業後、県立川俣高校でウエイトリフティング競技をスタート。「はじめてバーベルを上げた時に感動した」と話します。高校1年で新人戦県大会を制し、その後は拓殖大に入学。現在は、自衛隊体育学校で練習に励む日々。「目指すは東京オリンピック出場。スポーツの力で村民を元気づけたい」熊川さんの「世界」への挑戦は続きます。

### つくってたべよう

夏の水分補給！  
アントシアニンをたっぷり含む  
「黒豆茶」

(材料)  
・黒豆(乾) … 100g  
・水 …………… 2.5ℓ

(作り方)  
①黒豆をフライパンで焦がさないように炒る。  
②鍋に移し、分量の水を入れ煮立たせる。

☆6月28日第4回思いやりまでいラリーピンポン交流会で振る舞われました。  
☆出がらしを無駄なく!! ご飯に入れて黒豆ごはんに。  
※アントシアニンは老化防止にはたります。

協力：飯館村食を考える会

入札結果をお知らせします

入札日／6月19日 (単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込み)	請負業者	完成予定
村有施設草刈業務(1)	3,996,000	大藤造園(株)	平成27年10月末
村有施設草刈業務(2)	6,912,000	濱田建設工業(株)	平成27年10月末
村有施設草刈業務(3)	7,095,600	(株)英工務店	平成27年10月末
村有施設草刈業務(4)	7,354,800	(有)福相建設	平成27年10月末
村有施設草刈業務(5)	7,959,600	(有)渡建工業	平成27年10月末
村有施設草刈業務(6)	10,368,000	濱田建設工業(株)	平成27年10月末
村道機能回復(パッチング)業務(1)	2,451,600	(有)渡建工業	平成27年10月末
村道機能回復(パッチング)業務(2)	2,419,200	(株)英工務店	平成27年10月末
村道機能回復(パッチング)業務(3)	2,451,600	(有)福相建設	平成27年10月末
村道機能回復(パッチング)業務(4)	2,430,000	濱田建設工業(株)	平成27年10月末
トラクターによる除草作業業務(1)	1,134,000	(有)福相建設	平成27年10月末
トラクターによる除草作業業務(2)	950,400	(有)福相建設	平成27年10月末
見石線舗装機能回復業務	2,289,600	(株)英工務店	平成27年9月末

入札日／7月3日 (単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込み)	請負業者	完成予定
飯館村プレミアム商品券販売業務	40,460,000	飯館村商工会	平成28年2月末
飯館クリアセンター(新ごみ焼却施設)建築工事に係る測量調査及び発注者支援業務	19,440,000	(株)エイト日本技術開発 東北支社	平成28年3月末
モニタリングポスト設置業務	122,169,600	(株)富士通エフサス いわき支店	平成28年3月末
第6号 帰還再生生活道路整備工事	10,422,000	(有)福相建設	平成27年10月中旬
第7号 帰還再生生活道路整備工事	7,992,000	(株)英工務店	平成27年10月中旬
第8号 帰還再生生活道路整備工事	10,692,000	(有)渡建工業	平成27年10月中旬
第9号 帰還再生生活道路整備工事	12,096,000	濱田建設工業(株)	平成27年10月中旬
第10号 帰還再生生活道路整備工事	6,253,200	(株)英工務店	平成27年10月中旬
第11号 帰還再生生活道路整備工事	15,120,000	濱田建設工業(株)	平成27年10月中旬

### こころのぽけっと

元気言葉は「前向きさと柔軟さ」

東日本大震災、そして原発事故が起きた年の5月に「元気の出る言葉」を特集した本が出ました。避難先で悲しみに打ちひしがれている人にとって、少しでも元気を出して欲しいし、『日本が元気になりましょう』という願いが込められての本のよつです。私がその本を買い求めたのは、多分1年以上経ってからはなかつたからです。

その本によると、子どもたちに元気を与える言葉は「アンパンマンのマーチ」だそうです。「たとえ胸の傷がいたんでも ああ アンパンマンやさしい君は いけ！みんなの夢 守るため」の歌が、多くの子どもたちに歌われました。

芥川賞作家で三春町在住の玄侑宗久さんは、「がまんせず、に『がんばる』『人事を尽くして天命を待つ』という言葉を書いていました。なるほど、こういう時にはそういうことも元気の源になるんだなと、さすが僧侶さんの言葉だと感心したところでした。

また、あるベストセラー作家の方は、「元気の出る言葉」として、「白と黒のたった二色で割り切る」としてはいけない」とあり、「とかく現代社会は、ものごとを白か黒かで決めつけたがり、曖昧であることを許さないことが多い。人間は白とも黒とも割り切れない、その中間というものもあるんだ」という言葉が添えられていました。

今回、私たちが遭遇している原発事故による放射線量に対する考え方は、正にこの言葉に表されているのではと思えました。放射性物質に対する考え方は、100人いれば100人とも違うという特殊性を持っています。したがって、より安全・安心を求めて、除染を徹底してもらおうことは当然ですが、その中でいろんな考え方や、とらえ方を尊重していくというところに災害への対応の仕方があり、そして人間らしさがあり、また復興へのヒントがあるということを、この言葉から改めてかみしめさせられたことでした。

平成27年7月23日 飯館村長 菅野 典雄